

責任者	経営戦略研究科長	作成部局	経営戦略研究科
-----	----------	------	---------

2021年度に向けた教育研究目標

【 A 票：教育研究目標1 】									
(タイトル) 博士課程後期課程の教育研究目標									
(狙い内容) 学識を備えた人材を厳しく陶冶し、博士学位授与者の質の保証・活躍を図るとともに、本学の教育研究の充実、さらには本学の学問的地位の向上を図る。									
1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)									
昨今のオーバードクター問題の悪化等の社会経済情勢に鑑み、最終学歴の究極形である博士号を、内容の伴ったものとして輩出する。									
<変更時記入欄>									
<変更理由記入欄：2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>									
2. 達成度評価									
評価指標	博士課程在籍者(x)による査読付学术论文数(y)					評価尺度	A : $y > x \div 3$ B : $y = x \div 3$ C : $y < x \div 3$ D : $y < x \div 6$	変更有無	
	<変更時記入欄>							A : B : C : D :	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
3. 年度毎の目標値									
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		C	C	C	B	B	A	A	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> A	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> A					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 年度末時点での在籍者28 名の3分の1である9.3 を、当該年度までの査読 付論文数10が上回ってい る		<2016年10月時点の実績> 2016年度の在籍者25名 の3分の1である8.3 を、当該年度までの査 読付論文数21が上回っ ている					
【2016年度の進捗状況について】									
2015年度においては、当初目標であったCに対し、思いのほか多くの学生が査読付論文を執筆しており、A評価となった。2016年度においては、新入生が4名入ったため査読付論文数が低下することが懸念されたが、上級生の論文数が予想外の伸びを見せ、再びA評価となった。これに慢心せず、引き続き研究指導に当たってきたい。									
<変更理由記入欄：評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>									

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？	→	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>		
①理由：		
②今後必要な取組み		

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に推移しており、大変評価できます。
- ・ 評価指標を上方修正することが期待されます。(A)
- ・ 年度ごとの目標値における実績が2015年度および2016年度においても、既にAであることから、2017年度以降の評価尺度を少し引き上げることを検討されてもよいのではないのでしょうか。(C)
- ・ 改善がかなり進んでおり、優れています。(D)
- ・ 査読付論文の執筆が活発に行われている様子が窺えます。引き続き積極的な取組みを期待しています。(E)
- ・ 博士課程学生数、査読付学术论文数は順調に推移しています。(F)
- ・ 内容のわかるタイトルの設定が求められます。
- ・ そもそも6分の1、3分の1といった、評価尺度の適切性についても検討が期待されます。(G)
- ・ 博士課程後期課程の教育研究目標として、内容を伴った者を輩出するという設定にもとづき、学生の査読付論文執筆数を数値目標にしているのはひとつの評価指標として妥当であると思います。目標達成に向けたスケジュール設定も適切です。(I)